

## 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

- 1 カリキュラムは、「教養科目」、「専門基礎科目」、「看護学専門科目」によって、構成されます。

「教養科目」は、看護学を学び、看護を実践していくためには、幅広い教養と現代社会の諸問題や自然環境について理解していることが重要であるとともに、学問への導入と大学での学習スキルの獲得が必要であることから、「人文科学」、「社会科学」、「自然科学」、「言語と表現」で構成します。

「専門基礎科目」は、看護専門職者としての基礎的な知識や看護実践能力育成の基盤となる人間と健康、取り巻く環境について理解を深めることを目指して、「人間の理解」、「健康の理解」、「環境の理解」で構成します。

「看護学専門科目」は、資質の高い看護実践者を育成するために必要な知識・技術等を学ぶことを目的としており、看護専門職者として生涯にわたり継続して学び続け、教育・研究者としての資質が育つための基盤を固めることを目指しています。

すなわち看護学を論理的、実践的に理解し、質の高い看護を提供できるようになるために、次のとおり構成します。

- (1) 基礎看護

看護学の基盤となる科目で構成します。

- (2) 健康レベル別看護

健康レベルに対応した科目で構成します。

- (3) ライフサイクル別看護

ライフサイクル及び発達に応じた科目で構成します。

- (4) 広域看護

様々な場における個人、家族、集団、地域を対象とする看護の科目で構成します。

- (5) 総合看護

看護の総合と発展を目指した科目で構成します。

- 2 教育目標を達成するために講義科目と実習科目を精選しました。

- (1) 効果的な学習を促すための科目の順序性と全体の配置のバランス

低学年から高学年へと学びの順序性を考慮し、教養科目の配置は前期課程に集約することで、学生の効果的な学習を促進し、基本的な知識、豊かな人間性や知的探求心を育むための一般教養を低学年で統合できるようにしました。

- (2) 研究能力を培うための科目の設置

学士(看護学)に求められる研究遂行能力の基本を習得するため、卒業研究Ⅰ・Ⅱ(5単位)の必修科目を設けました。

- (3) 実習科目の充実

社会環境の変化に伴って医療者に求められる役割拡大に応えられる実習内容としました。実習を通して技術・知識の統合と看護専門職としての基本的な態度を習得できます。

\* 1学年次に初めて医療現場に触れる入門実習を配置しました。このことによってこれから学ぶ看護への動機づけが高まります。

- \*成人看護学領域となる「治療・回復過程援助実習」「療養生活支援実習」は3単位としました。十分な実習期間を保証したことで、入院から退院、在宅への連続性や医療の多様性を学ぶことができます。
- \*高齢化社会に対応できる看護職者育成のため、老年看護援助実習を3単位としました。病を抱える高齢者、健常な高齢者など様々な健康レベルにある高齢者の理解が深まるとともに、地域社会における高齢者医療の課題を追求する姿勢が育まれます。
- \*4学年次生の総合看護実習は看護学全領域が関り、4年間の知識と技術の統合を図るための実習内容や技術教育をより充実させるためのシミュレーション演習、医療をマクロの視点からとらえるための病院長、看護部長らによる臨床講義などで構成しました。卒業後に看護専門職として社会化を果たすための一歩となります。